

れいわ ねん だい かい しずおかしたぶん かきょうせいきょうぎかい かいぎろく
令和3年 第2回 静岡市多文化共生協議会 会議録

- 1 日 時 2021年7月28日（水）19：00～21：00
- 2 場 所 静岡市役所 本館3階 第1委員会室
- 3 出席者 多文化共生協議会委員13名（欠席1名）
高畑 幸、長阪 有美奈、磯部正己、伊藤洋子、磐村文乃、小川毅、孔雪、
ゴー グエン ゴック トラム、パメラ ジュール、中村直保、野田敏郎、
ホリウチ アリッセ イズミ、松永秀昭
望月観光交流文化局長、岡村観光交流文化局次長、国際交流課職員
- 4 傍聴者 5名
- 5 次第
 - 1 開会
 - 2 本日の審議内容について
 - 3 前回のおさらいと委員の考える「多文化共生のまち」のあるべき姿
 - 4 条例骨子案審議
 - その1 「前文」と「目的」
 - その2 「定義」と「基本理念」
 - その3 「責務」
 - 5 その他
 - 6 閉会

萩原課長（司会）

ただ今から、令和3年度第2回静岡市多文化共生協議会を開会します。傍聴席は2か所ありますので、グループワークが始まりましたら、席を移動してお近くで聴いていただきたいと思います。

望月局長

皆さん、こんばんは。本日はお集りいただきありがとうございます。5月25日に第1回を開催して2ヶ月が経ちました。前回は市長も交えて活発なご意見をいただきました。今回は具体的な条例の審議に入るため、初めて見るような文章など難しい点があるかもしれませんが、前回同様に活発な意見交換をしていただき、皆さんと一緒に作り上げたいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。

萩原課長

ただいま説明がありましたとおり、今回と次回の2回で条例の骨子案の審議をしていただきます。皆さんから、より多くのご意見をいただきたいという考えから、2つのグループに分かれてメンバーを入れ替えながら話し合いを進めます。会議は記録のために録音させていただきます。どうぞ忌憚のない積極的なご発言をお願いします。ここからの進行は、静岡市附属機関設置条例第6条第3項にもとづき、協議会会長の髙畑会長にお願いいたします。

髙畑会長

こんばんは。私自身も条例の策定にかかわるのは初めてのことで、とても楽しみにしています。初めに次第2「本日の審議内容について」と、3「前回のおさらいと委員の考える多文化共生のある

べき姿」について、事務局から一括して説明をお願いします。

事務局（国際交流課）興津

資料1は、5月25日の委員の皆さまと田辺市長の発言を簡単にまとめた資料です。田辺市長からは「SDGs目標達成のためにも、今、多文化共生が重要」、「キーワードはダイバーシティ」、「今住んでいる人が幸せでないと、新しく来る人もいない。」との発言がありました。高畑会長からは、「外国人と日本人の2つには分けられない」、「誰もが静岡人」とのご意見。長阪副会長からは、「経営者同士の交流をしていきたい」とのご意見もありました。全てをご紹介できませんが、資料にまとめたのでご確認ください。

資料2は、委員の皆さまが考える「多文化共生のまちのあるべき姿」について、事前に回答をいただいたものです。静岡市の多文化共生のまちの将来的な理想形について、自由な表現で意見を伺っています。条例への掲載に留まらず、今後、市として取り組むべきことなど、色々と具体的な観点からご意見をいただいております。条例に全てを位置づけるのではなく、来年度の多文化共生推進計画の審議でも、具体的な事業に活かしていければと思います。

高畑会長

ありがとうございました。以上の説明について、皆さんからご質問はありますか。無いようなので、次に進みます。次第4「条例骨子案の審議について」。ここからはグループワークとなりますので事務局に進行をお願いいたします。

事務局（国際交流課）興津

資料3-1、3-2を使って説明します。本日のグループワークでは、「前文」と、本文の中の「責務」までを議題とし、「基本的施策」と「推進」は、次回の協議会のテーマとします。グループワークの進め方ですが、資料3-1の2ページ目から「審議その1」「審議その2」「審議その3」の3回に分かれて話し合いをしていただきます。それぞれのグループに、高畑会長と長阪副会長に進行役として入っていただきます。グループ討議の後、グループでどんな話が出されたか、発表者に報告をしていただきます。その後メンバーを入れ替えます。名簿にAグループ、Bグループのメンバーが書いてあります。各審議、20～30分の話し合いでまとめてください。それでは、審議その1からお願いします。

<ここよりグループワーク>

【審議その1 「前文」と「目的」 Aグループ】

高畑会長

資料を読んで、この言葉が分かりにくい、これを足したほうがいい、といった点はありませんか。

伊藤委員

「包摂性」という言葉はあまり使わないので難しいと思います。

小川委員

前文にいろいろな要素を盛りこみたいことはわかりますが、すべてを入れると長くなると思います。

パメラ委員

「外国人住民の積極的な社会への参画」について、地域社会への参画の重要性が説明されていません。

例も交えて説明してほしいと思います。また、特色として、留学生や技能実習生だけを取り上げず、長期滞在者も意識したものにしてほしいと思います。

高畑会長

長期滞在者にも目を配りたいですね。地域社会に外国人住民が積極的に参加することが重要であるのはなぜだと思いますか。

パメラ委員

「外国人住民の積極的な社会への参画」の特典は何かということです。日本社会が活発になるとか、経済が良くなるからなどの説明があるとよいと思います。

中村委員

我々のような70代の世代が子どもだった頃は、まわりに外国人が少なかった時代です。その世代にとっては、アレルギーというか、話しかけず道をわざわざ遠回りに行くような感覚があるのではないかと思います。そこをもう少し近づけられるような、外国人がともに暮らしていることをあたりまえと感じられる地域を表現できるとよいと思います。今後、外国人がどの会社にもいるような時代になれば、隣近所に住んでいても、日本人と外国人の区別もなくなるとは思います。ただハードルがある気もします。

パメラ委員

多文化共生の重要性は、社会に参加することの重要性とは異なるかもしれません。多文化社会はなぜ重要か、「様々な文化が混ざり合った社会だとなる」という説明がほしいと思います。

なかむらいいん
中村委員

ちいき なか がいこくじん い あづ ひょうげん
地域の中での外国人の位置付けを表現できるとよいのではないのでしょうか。外国人の方々が住む地域は
あか おも
明るいと思います。「積極的な参画」の前提に「信頼」があることも大切なポイントです。

だかほたかいちよう
高畑会長

がいこくじん おお ちいきしゃかい よ
外国人が多い地域社会の良さを伝え、どう変えていくか、アプローチを示せるとよいですね。

おがわいいん
小川委員

ちいきしゃかい にんげんかんけいづく きいしよ ばしよ かん
地域社会は、人間関係作りの最初となる場所だと感じます。

なかむらいいん
中村委員

こどもはがっこう はい たようせい な
子どもは学校に入って多様性に慣れることもできますが、大人の世界は価値観の違いもはっきりしてな
かなか むづか めん
かなか難しい面があります。まずは多文化であることを認識することが重要だと思います。

パメラ いいん
委員

がいこくじん だれ
外国人だけでなく、誰もがみなそういう多文化の要素を持っている点を文章化されれば嬉しく思います。
それをにんしきするのがきいしよ いっぽ かん
それを認識するのが最初の一步だと感じます。オリンピックでも、サーフィンの五十嵐さんは日本からの
まんか
参加でしたが、アメリカ生まれのアメリカ育ちだったりするようなことです。

だかほたかいちよう
高畑会長

「多文化」には、がいこくじん
「多文化」には、外国人だけではなく、日本で育った人同士の多様性もとらえられるとよいですね。日本

も世界も多文化があたりまえで、個人の文化を大切にすることが多文化共生だと考えられます。日本にずっと住んでいると、みんな同じような価値観だという思い込みがうまれているかもしれません。

ホリウチ委員

アンケート（※）のP6に、「外国人住民と関わりがないので困ったと感じたことがない」という結果がありますが、子どものころからの国際理解教育が進めば、こういう結果にならないと思います。

※参考資料 多文化共生のまちづくりアンケート調査結果（速報）

パメラ委員

回答が、60代、70代に偏っているかもしれません。

伊藤委員

学生や技能実習生は忙しくてイベントや地域行事に参加できないのではないのでしょうか。

高畑会長

技能実習生は働くために来日しているので、会社としての行事参加でないと難しいかもしれません。

学生も学校としての行事であれば参加してもらいやすいと思います。

あと、「前文①社会情勢」のところに「防災」の観点があってよいのではないのでしょうか。静岡市は海に

面しているので津波の心配もあります。日本人、外国人ともにみんなで助け合わないとなりません。

伊藤委員

自分たちが避難するところを知らない人もいます。

なかむらいいん
中村委員

さいがい いのち かか するので たす あ か かせないことです。

だかほたかいちよう
高畑会長

「みんなで助け合い、安心・安全で・・・」という点で「災害」を含めることもできますね。

【まとめ】

だかほたかいちよう
高畑会長

- ・「外国人住民の積極的な社会への参画～」が抽象的なので「災害時に備え」など具体例を入れる。
- ・「多文化」は外国人のみでなく、日本人も世代が違えば文化も違うように、外国人に限らず一人ひとりが持っている文化を尊重すると広くとらえるものとしたい。
- ・外国人と日本人の交流の機会を会社の中や学校の行事でひろげられるとよい。
- ・高齢者より若い人のほうが外国人とかかわっているのではないか。
- ・静岡市は海に面しているので自然災害に対する防災の観点があってもよいのでは。

【審議その1 「前文」と「目的」 Bグループ】

まつながいいん
松永委員

しずおかし じちかいかにゅうりつ ぜんこくへいきん くら たか ことを とくしよく だ 出してはどうでしょうか。

また、「目的」に「基本的な施策」との記載がありますが、施策は個々の事業をイメージするもので、計画の中で示されるものです。条例では少し大きく「方向」や「方針」という表現のほうが適しています。

磯部委員

あるべき姿の「静岡人」が何を指すのか、ある程度共通の認識として定義しておく必要があります。

磐村委員

「静岡人」は一般的に使われている言葉でしょうか。海外に住む静岡出身の方はどうですか。

野田委員

「静岡人」の表現が伝えていることは、「このまちで暮らしているという意識をみんなで持っているということ」だと思います。

松永委員

審議その3の「責務」のところを踏まえると、事業者には勤めている人も含まれると考えられますので、例えば東京に住んでいても静岡の企業に勤めていたら、「静岡人」ととらえてよいと思います。つまり、静岡市に住んでいるか、通勤・通学している人にしぼればシンプルで整合もとれます。

ゴー委員

話は変わりますが、日本人と外国人の間で、子どもたちはすぐ仲良くなれますが大人は難しいと思うことがあります。お互いに笑顔を交わせる関係ができるとよいのですが。

長阪副会長

外国人に対する抵抗を無くしてほしいと感じますね。

野田委員

「笑顔」というのは安心感を与えるものですね。

孔委員

「笑顔で接しましょう」というのは、人の性格もあるのでなかなか難しいとも思います。日本人だから、外国人だからという区別ではなく、地域住民どうしの交流を深めてお互い理解し合える、出会いや交流の場がほしいと思います。例えば、外国料理など毎回テーマを変えて楽しい会を開くことなどが考えられます。

長阪副会長

町内会の方を借りて、3か月に1回くらい交流会や話し合いの機会ができれば嬉しいですね。小規模でも地区の特徴を活かしたイベント、例えば、その地区に多い国籍の人達が好きそうなことや、日本人がその国の人から知りたいことなどをテーマに開催できるとよいと思います。

【まとめ】

松永委員

- ・「静岡人」をどうとらえるか。住民だけではなく、通勤、通学者を含めるかがポイント。
- ・特色として自治会加入率が全国平均より高いというコミュニティの特性を入れたらどうか。
- ・交流について、コミュニティで外国人の状況を把握し、その地区に多い国籍の方をテーマにしたイベントを開催する。
- ・「笑顔」がキーワード、安心、安全につながる笑顔を大切にする。

【審議その2「定義」と「基本理念」 Aグループ】

磐村委員

「助け合い」に加えて「学び合い」という言葉を加えたらどうかと思います。

磯部委員

教育での学びに限らず、包括的な、大きな視点での「学び合い」ととらえればよいと思います。

高畑会長

学校だけでなく、隣近所や職場など、あらゆる場面で「学び合い」があるということですね。

ゴー委員

「学び合い」は大事です。子どもが学校に通うようになってママ友ができました。中には家族以上に思ってくれる人もいて色々なことを学ぶことができます。人との出会いと、お互いに学び合うことが大事だと感じています。

伊藤委員

今ある出会いを大切にすること、そして、どのようにしたらこの出会いをより良いものにしていくかを考えることが大切だと教わりました。

孔委員

「協力し合う」ということも重要だと思います。ふだんから地域のイベントや町内会に参加したり、

荷^{なに}があったらお互^{たが}いに声^{こえ}を掛^かけ合^あい、助^{たす}け合^あえる関^{かん}係^{けい}ができるとよいと思^{おも}います。

磯部委員

「違^{ちが}い」という言^{こと}葉^ばですが、そう言^いい切^きることがどうかと感^{かん}じま^す。他^{ほか}に代^かわる表^{ひょう}現^{げん}があればその方^{ほう}がよいのではないかと思^{おも}います。

小川委員

全^{ぜん}般^{ぱん}的に日^に本^{ほん}語^ごがくどいと感^{かん}じられま^す。例^{たと}え^ば、「違^{ちが}いを尊^{そん}重^{ちゆう}」、「違^{ちが}いを活^{かつ}かす」とか、「助^{たす}け合^あい」、「と^ともに行^{こう}動^{どう}する」など、同^{おな}じこ^こを繰^くり返^{かえ}すよ^よう表^{ひょう}現^{げん}が使^{つか}われてい^いるよ^ようにもとれま^すが、条^{じょう}例^{れい}とはこ^こうい^いうものな^なのでし^しょうか。

高畑会長

たしかにそう感^{かん}じるところはあ^ありま^す。「と^ともに行^{こう}動^{どう}する」とい^いうのは良^よい表^{ひょう}現^{げん}だと思^{おも}いま^す。「～し合^あう」とい^いうのも一^{いつ}方^{ぽう}的^{てき}ではな^ないとい^いう考^{かん}え方^{かた}から^かの表^{ひょう}現^{げん}でよ^よいと思^{おも}いま^す。

【まとめ】

磯部委員

- ・定^{てい}義^ぎに「助^{たす}け合^あい～」ととも^とに「学^{まな}び合^あう」とい^いうこ^ことを入^いれたい。学^が校^{こう}、教^{きょう}育^{いく}的^{てき}な視^し点^{てん}だけ^{だけ}ではな^なく生^{せい}活^{かつ}の中^{なか}での近^{きん}所^{じょ}や会^{かい}社^{しゃ}、交^{こう}流^{りゅう}など^{など}で学^{まな}ぶこ^ことも大^{だい}事^じであり、追^{つい}加^かしたい。
- ・「国^{こく}籍^{せき}、民^{みん}族^{ぞく}の違^{ちが}いを尊^{そん}重^{ちゆう}し～」の、「違^{ちが}い」とい^いう言^{こと}葉^ばが2か所^{じょ}でて^てくる。「違^{ちが}い」とい^いう表^{ひょう}現^{げん}とは違^{ちが}ったフ^ふレーズ^{れい}で言^いえな^ないか。
- ・条^{じょう}例^{れい}とい^いうもの^{もの}の性^{せい}質^{しつ}かもしれ^れないが、日^に本^{ほん}語^ごの言^いいまわし^しがくどいと感^{かん}じ^じる印^{いん}象^{しょう}をう^うけ^ける。

【審議その2 「定義」と「基本理念」 Bグループ】

野田委員

「多文化共生のまち」の定義として、「すべての人が・・・」とすることに賛成です。日本人、外国人を区別してとらえることが多文化共生ではないと思うからです。

パメラ委員

定義が「国籍、民族等」では足りない感じもします。ソーシャル・インクルージョンを意識するのであれば、「価値観・生活様式」などを入れてもよいと思います。

中村委員

「民族」という言葉は、日本人にあまりなじみのある言葉ではないと感じます。別の表現は考えられないでしょうか。

松永委員

何を尊重するかということになるとと思いますが、「文化」はどうでしょうか。

長阪副会長

外国人は日本文化を尊重して生活しないと住み心地もよくなりませんが、静岡市にはもっと外国文化の要素を取り入れてほしいとも思います。どの文化を取り入れるかは、住民が多い国であるとか、将来的なところを見据えて先取りすることも大事だと思います。

野田委員

「民族等」には、「思想」も入るのでしょうか。

ホリウチ委員

「国籍・民族などの異なる人が文化的な違いを尊重し・・・」と書くとやさしい表現になると思います。

中村委員

国の定義では、「国籍、民族など」となっていますが、静岡ではやさしい表現にするのもよいと思います。

一人ひとりの価値観を尊重する時代にもなっていると感じます。

パメラ委員

「すべての人が地域と文化の違いを尊重する」という言い換えはどうでしょうか。

野田委員

資料の中で、審議のポイントとして、「みんなに受け入れられる理念といえるか？」と書かれています。

みんなというのは、広く市民に受け入れられるかということだと思いましたが、そうならないほうがよいと

思う人たちもいて、みんなが納得できるものであるかを確認しなくてよいのでしょうか。

中村委員

アンケート結果からも、世代によっても回答が極端に違うところが見受けられます。将来的に幅広い人

たちに受け入れられる理念であるべきとは思いますが。

パメラ委員

万人に受け入れられるのは難しいし、そうすることで理念の意味も薄れてしまうのではないかと感じます。

松永委員

調査については、年代ごとに他の項目もクロス集計したほうがよいと思いますので事務局にお願いします。

ホリウチ委員

基本理念についても、「すべての人が・・・」という認識でよいのでしょうか。(全員賛同)

野田委員

「多様性を活かす」ということが恩恵、メリットといえるので、それを示せば、広く受け入れられる理念になると思います。

【まとめ】

野田委員

- ・定義の「すべての人が・・・」という表現について賛成。基本理念の「誰でも」も「すべての人」に置き換え、国の定義とは違う静岡らしい多文化共生を表す。
- ・「民族」の表現が静岡の条例としてふさわしいか違和感がある。
- ・「みんなに受け入れられる理念」となっているか、もう少し議論が必要だと感じた。

【審議その3「責務」 Aグループ】

野田委員

審議2の話題でもありましたが、「民族」の言葉がぴんとこない感じがします。例えば、文化や価値観などの別の表現にならないでしょうか。

中村委員

外国の方に「お国はどこ？」とは聞くことはありますが、民族については聞いたことがありません。日本では、「民族」よりは「人種」のほうがイメージしやすいと思います。

パメラ委員

アメリカでは「人種」を使うことはありますが、日本ではあまり使われません。

孔委員

アジア系の方は「人種」の方が違和感があるし重たい印象をうけます。中国は56の民族が暮らしており、「民族」は身近な言葉になっています。

磯部委員

国（総務省）の定義も「民族」を使っているので、置き換えるのは難しいかもしれませんね。

高畑会長

無難なところをとって、国と同じ定義としておくこともいいかと思いますが、条例を読んでイメージが

できるようにしておくことは大事だと思ひます。

松永委員

日本では、「国籍」と「民族」はほぼ同じようなイメージにとらえられているのではないかと感じます。

違う言葉を入れるとしたら「文化」がよいと思ひます。

高畑会長

「民族」は「文化を同じくする集団」を意味するものといえます。

中村委員

国は「民族」を尊重する考えがあるかもしれません。国の定義に注釈を加えてイメージをしやすくする方法も考えられます。

高畑会長

同様に「静岡人」という言葉も同じアイデンティティを持つ者と定義できるかもしれません。

磯部委員

市、市民、事業者と一般的に責務が分かれています、「静岡人」を強調するのならば、あえて市民を

「静岡人」と表して、静岡らしい条例とするのもいいかもしれません。

パメラ委員

事業者の採用については「差別をしない」としていますが、中小企業にとっては、就労ビザの関係で

市から何らかの支援がないと不安があるかもしれません。

松永委員

事業者の静岡への帰属意識にもよりますが、半田市のように「市の施策に協力」という表現もよいと思います。「協力しなければならない」という強い表現でもよいのではないかと感じます。

野田委員

求人や採用は、国籍を選ぶこともあるから、大丈夫でしょうか。

高畑会長

採用時の差別の禁止については法律もあるので確認しておきたいですね。

【まとめ】

高畑会長

- ・「市民の責務」は、エッジを効かせた表現として「静岡人の責務」としてはどうか。
- ・「民族」はイメージしづらい。言い換えられればベストだが、条例として外に示すには無難に国と同じ表現になるのではないか。
- ・他自治体の事例もあるので、事業者の責務は、「推進に努める」を「市の施策に協力しなければならない」くらいの強めな表現でもよいのでは。

【審議その3「責務」 Bグループ】

伊藤委員

事業者の責務について、不動産屋や大家さんが外国人であることを理由に断られた話をたくさん聞いたことがあります。事業者のみなさんには外国人にもう少しやさしくしてほしいと感じます。

ホリウチ委員

私もそのような話をよく聞きます。

長阪副会長

市の責務ですが、「『多文化共生のまち』の推進の総合的な取組を・・・」との記載に具体性がありません。

(事務局コメント：具体的なところは次回以降のテーマとします)

ゴー委員

差別ではないかと感じるのですが、女性の「健康診断のお知らせ」をもらえていない人がいます。

長阪副会長

差別は先入観からきているものだと感じますが、先入観をなくすにはどうしたらよいでしょう。

日本人も差別されることがあるのでしょうか。

小川委員

「差別」はマイナスイメージの言葉です。条例にマイナスの言葉を入れることがどうかと感じます。

事務局（国際交流課）興津

外国人住民アンケートでは、生活の中で外国人ということでの差別を感じたことのある方が4割います。

磐村委員

「差別」という表現を残すことには意味があるのですね。

小川委員

事業者の責務には、応募してくる人や勤める人に対する差別をしないこととともに、サービスの提供において差別しないことを盛りこみたいと感じます。

磐村委員

市の責務は「実施する」、市民の責務は「推進に努める」という表現となっています。他にいい言葉がないかでしょうか。先ほどからの議論にもありましたが、「参画する」というのはどうでしょう。

長阪副会長

市民は、「協力する」というのもどうでしょうか。

【まとめ】

小川委員

- ・「差別」という言葉は、マイナスのイメージが強いが残すかという議論になり、残した方がよいという意見が出た。

- ・市民の項目で、「推進に努める」ということで、「参画する」という表現を加えてはどうか。
- ・事業者の項目で、事業所に入ってくる人に対しての差別については記載されているが、事業者が提供するサービスについても差別がないように加えて記載してはどうか。

<ここまでグループワーク>

高畑会長

グループディスカッションで率直に意見交換ができました。事務局で整理して、次回の協議会の資料に反映していただくようお願いいたします。それでは事務局に進行をお返しします。

萩原課長

ありがとうございました。本日いただいたご意見は次回の資料に反映いたします。次回は9月14、15、16日を候補日として、皆さんができるだけ多く出席できる日を選びたいと思います。決まりましたら、また改めてご案内します。本日の協議会の内容は「会議録」として、前回と同じく皆さんに確認した後に、市のホームページでも公開いたします。

それでは、以上をもちまして、第2回多文化共生協議会を閉会いたします。ありがとうございました。

以上

会議録署名人

会 長 高 畑 幸